NO.46 学校図書館 司書だより
2023年7月

わたしと読書

太田小学校　中島俊太郎

私は昨年度、校内の図書館担当として図書に携わる仕事を多くさせていただきました。これまでの教員生活、休み時間には外や教室で児童生徒と過ごすことが多かったのですが、昨年度は休み時間に図書館に行く機会がかなり増えました。するとこれまで全く知らなかった素敵な時間が図書館には流れていました。本との出会いを楽しむかのように、図書館中の本を見て回り自分の読みたい本を探す児童。運動場から聞こえる楽しそうな笑い声とさわやかな風を感じながらお気に入りの本に没頭する児童。本を愛し、読書を楽しむ姿に感銘を受けました。

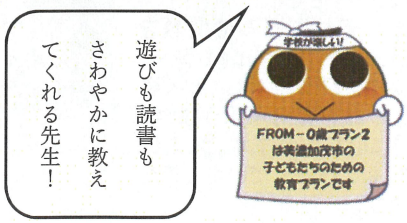
私自身、本を読むことが好きです。書店で気になる本を見つけると、まだ読み終えてない本が自宅にあるにも関わらず、ついつい買ってしまいます。そんなこんなで家にはまだ読み終えてない本がいくつか眠っています。先日も数年前に購入し、なかなか読むことのできていなかった「かがみの孤城」という本を読みました。中学生七人が主人公の物語です。次々と明かされる登場人物の真実や、前半の伏線がどんどん回収されるクライマックスのシーンに読む手が止まらず、五百ページを超える長編物語でしたが、あっという間に読み終えてしまいました。読んでいる途中は自分も物語の中の登場人物に成り切っていました。読書の素敵なところは、こんな風に自分を全く違う世界に連れて行ってくれるところだと思っています。

今となっては本を読むことが好きな私ですが、実は子どもの頃は本を読むことが苦手でした。小学生、中学生の時は朝読書の時間がとにかく嫌でした。たった十分がとても長く感じ、読み始めても最後まで読み切ることのできない本ばかりでした。そんな本とはあまり縁のない生活を送っていた大学生のある時、授業で夏目漱石の「こころ」という本を読むことになりました。活字が苦手だと感じていた私はあまり気が進みませんでした。しかし、驚くことに読み始めると続きが気になり、あっという間に最後まで読み切ることができたのです。本を読むことに初めて没頭した瞬間でした。これまでただ活字が並んでいるだけに見えていた本の世界が、頭の中で想像できたのです。テレビや映画では創り出せない自分だけの世界観が、本を読むことで頭の中に広がるようになり、本を読むことが楽しくなりました。自分の中の「読書スイッチ」が入った瞬間だったと思います。だから、今なかなか本が好きになれないという人も少しずつ本と触れ合う機会を作ってみてください。きっと本が好きになる日が来るはずです。

私は今六年生の国語の授業を担当していますが、自分が読み終えた本を授業の中で児童に簡単に紹介するようにしています。児童に本に興味をもってもらえればなという思いでやっていますが、意外にもその本の紹介を真剣に、楽しみに聞いてくれる児童もいます。「かがみの孤城」を紹介した時には、「おもしろそう」と三人もの児童が実際に本を手に取り読んでくれました。そして読んだ感想をたくさん教えてくれました。「あの場面、本当にびっくりしたよね」「まさか、あの人の正体が・・・」「どの登場人物が好き?」など、本についてたくさん話をしました。本は自分で読むだけでなく、読むことを通して人と人とをつなげる架け橋にもなってくれます。そんなことを実感した瞬間でした。

太田小学校では、読書に関わる取り組みがいくつもあります。週四回、朝十分間の読書タイムが設けられており、全校児童が静かに本を読みます。図書委員会は休み時間の図書館運営やお昼の放送での読み聞かせ、秋には図書館祭りなどのイベントも計画し、全校児童が本に触れ合うきっかけづくりをしてくれています。その他、司書の先生による読書に関わる授業や、保護者や地域の方にボランティアを募って行う朝の読み聞かせ活動など、たくさんの方の協力を得ながら本とのつながりを大切にしています。

本は、自分の知らないたくさんの世界に出会うことができ、自分の価値観を広げることもできる素晴らしいものです。子どもたちが素晴らしい本と出会えるよう、これからも本の魅力を全校児童に発信してきたいと思います。



読書タイム

坂祝町中央公民館図書室

美濃加茂市立図書館のカードで坂祝町中央公民館図書室でも本を借りることが出来ることを知っていますか?坂祝町に近い地域の人や公民館講座に参加されている人は知っていると思います。

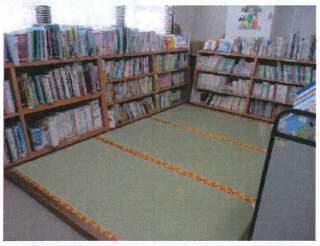
坂祝町中央公民館図書室は、坂祝町中央公民館一階にあります。小さな図書室ではありますが、二万六千冊以上(赤ちゃん絵本やこどもの絵本、大人の本まで各分野の本)が、そろっています。人気の小説や絵本、話題になった本なども書棚に並んでいます。

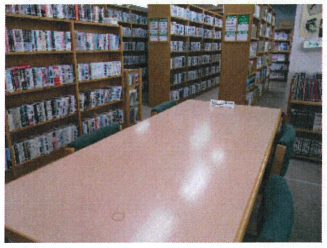
坂祝町は、美濃加茂市立図書館(東図書館・中央図書館)と図書館システム統合により、どちらかの図書カード一枚を持っていることで、各図書館(室)の蔵書を借りることが可能です。返却も、各図書館(室)の本であれば、窓口や返却ボックスで可能です。(レプリカや他館の本については除く)

平日は、訪れる利用者は少ないですが、土日になると、家族で図書室を利用してくれる人たちが多いです。一人一枚、図書カードを作成しているため、一度に十~二十冊借りていく姿があります。幼児向け絵本があるスペースには、畳があります。絵本を選んで読む子や、読み聞かせをする親子の姿があります。

小学生に人気の「サバイバルシリーズ」や「学校では教えてくれない大切なことシリーズ」、「ゾロリシリーズ」などが書架に並んでいます。夏休みや春休みなどの長期休暇になると、まとめて借りていかれる人たちが多いです。

一度、坂祝町中央公民館図書室へ寄ってみてください。素敵な本に出会えるかもしれませんよ。



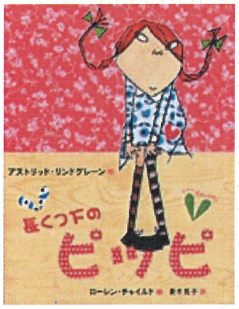


この本読んでみて!

物語

「長くつ下のピッピ」岩波書店　￥3,080

アスリッド・リンドグレーン/作



ピッピは自由気ままな女の子。力持ちでお話上手。クッキーをたくさん作るときには床一面にクッキー生地をのばして型抜きしたり…大人にダメといわれそうなことを次々とするピッピに、子どもの頃夢中になりました。ピッピがいれば退屈知らず!

自分で読んでも、読み聞かせでも楽しめること、間違いなしです。

えほん

「ウエズレーの国」あすなろ書房　￥1,540

ポール・フライシュマン/作

ウエズレーはちょっと変わった男の子。いつもひとりだけはみだしてる。

そんなウエズレーが夏休みの研究に思いついたことは、自分だけの作物を育て、自分だけの文明をつくること。庭で研究を重ね、誰も見たことのない新しい国をつくった。スケールの大きさにわくわくが止まりません!

大人むけ

「すきまから見る」東洋館出版社　￥1,600

林千恵子/著

林さんは不登校児の相談員として過ごす中、不登校には意味と目的があると知ります。子どもたちの問題にどのように接し受け止めてきたのか、その子どもたちの成長の話から、「不登校」に対する思い込みに気づかされます。それは解決の糸口になるのではないでしょうか。

小説

「神隠しの教室」童心社　￥1,650

山本悦子/著

学校から加奈たち5人以外の姿が消えました。見た目はいつもと変わらないこの場所はどうやら『もうひとつの学校』のようです。なぜ自分たちだけが・・・。どうすれば帰ることができるの?

それぞれに悩みや問題を抱える子どもたちが『もうひとつの学校』で成長していく姿と、それを見守るような『学校』に心打たれます。大人の方にもぜひ読んでいただきたいです。

このコーナーで本を紹介しているのは、市内の学校司書3人と東図書館司書です。